

臨床  
医学

臨床医

大学教員(臨床+研究)

海外にて研究

大学教員

## 外科医として、臨床だけでなく研究を担う医師として。

野村幸世 (東京大学大学院医学系研究科消化管外科 准教授)

## 仕事の内容とやりがい

仕事は外科医ですから、基本は手術を含んだ外科の臨床です。専門は胃癌。ですが、大学病院というところは臨床だけをやっていればいいところではなく、教育、研究も行ってあります。研究では胃の発癌研究、幹細胞、そして、最近では新しい治療法を手がけてあります。やりがいは人を助けられること。そして、日々おいでになる患者さんを助けることだけではなく、皆が幸せになれるよう、新しい治療法を考えることです。

## 仕事と家庭とのバランス

バランスなんていうのはお恥ずかしい。やはり外科医のダンナと3歳と0歳の二人の娘がおりますが、バランスというよりは子供を産んでこのかた、仕事も家庭も「適当」と言うのが妥当ではないか、と。娘たちは東大病院の保育園に毎日12時間くらい行っています。出勤時に預け、帰宅時にお迎えになります。下の子の授乳には3時間おきくらいに呼ばれます。週末は職場の仲間を支えられ、出勤はしていません。せめてもの子供との時間です。仕事は、職場にいるときは全力投球です。

## 進路のきっかけ

幼少時から将来は医者になると言っていたようなので、あまり深く考えていないかもしれませんが、ただ、人を幸せにできる仕事をしたいとは常に思っております。外科を選んだのは、直接的に治療にあたるから。ただ、初期研修の頃にはあくまで臨床医を考えており、研究をするとは思っていませんでした。研究をするきっかけは、臨床をやっていて、助けられる患者さん(早期がんとか)は多くの医者が助けられ、助けられない(末期がんとか)はどんな医者も助けられないことに気づいたからです。つまり、助けられる範囲を拡大できるのは研究であると思ったからです。

## 進路選択に対するメッセージ

やりたいことを目指しましょう。私も女性がほとんどいない時代に外科の医局に入りました。個人的生活も含め、どうなることかと周囲は思ったようですが、どうにかなるのが人生です。新しい領域を切り開いてこそ、人生の醍醐味かもしれません。ただ、人生のパートナーだけは妥協せずに選びましょう。対等な意識を持ち、対等に家事、可能なかぎり対等に育児をやってくれている、女性の社会生活があります。固定観念を持った男性の再教育は困難です。

## 海外留学・勤務を通じて得たこと・得したこと

アメリカに留学しておりましたが、研究に關しましてはやはりアメリカの能率はすごい。雑務をしなくてもいい環境でたくさんの論文を上げることができました。その御陰か、帰国時に助手から講師に昇進いたしました。ただ、私としては、得た最大のものは日本での地位よりも、アメリカ人の物の考え方、合理性、自主性、それを支える社会、など日本とはとても違う部分を知ったことです。女性が働くことが普通というのも勉強になりました。

## 海外の女性研究者の活躍と位置づけについて感じたこと

まったく肩に力が入らずに、男性と同等なのが仕事をしていたとても楽でした。アメリカでは日本と違い、一つの研究室に入ったら、そこに長くどまるのが通常というわけではなく、一旦、ある研究室に入ってもあまりうまくいかないとか、皆、どんどん他の研究室を探して移動してしまいます。研究室探しも自由競争みたいなもので、評判がわるいとよい研究者も集まりません。指導者側も研究者の履歴を見て、雇うかどうかを判断します。女性研究者は真面目な方が多いので、指導者からは人気でした。

## 海外留学・勤務を決めたきっかけについて

日本で大学院を卒業する間にたまたま研究会で大学院生時代の仕事を英語で発表する機会にめぐまれました。その研究会にアメリカから来て出席なさっておられた先生にぜひ、自分の研究室に来てポスドクをやらないうか、と誘っていただいたのがきっかけです。ただ、私は大学院卒業後はいったんは臨床のトレーニングに戻りたく、その先生には5年も待っていただきました。助手休職という身分で行ったため、休職の最大期間である3年間留学しておりました。

## 滞在先の思い出・生活者としての体験

テネシー州ナッシュビルのバンダービルト大学で研究しておりました。州都とはいえ田舎で、緑がたくさんあります。移動はすべて車です。留学時代は独身でしたが、同じ研究室にはいろいろな国から来た独身の研究者が多く、しょっちゅう一緒に食事をしたり、ビデオを見たりして楽しんでいました。アメリカの方ばかりではなく、世界中の同じような興味の人々と話ができて、とても楽しかったです。今でもメールをしたりしています。東日本大震災のときにはたくさんの友人からお見舞いのメールをいただきました。

## &lt;野村幸世 (のむらさちよ) プロフィール&gt;

- 1982年 私立櫻蔭高等学校卒業
- 1983年 東京大学教養学部理科3類入学
- 1989年 東京大学医学部医学科卒業
- 1994年 東京大学大学院医学系研究科入学
- 1998年 同 卒業
- 1998年 東京大学医学部附属病院分院外科助手
- 2002年 米国Vanderbilt University 留学
- 2005年 東京大学医学部附属病院胃食道外科 講師  
結婚
- 2007年 東京大学医学部附属病院胃食道外科 准教授  
第一子出産
- 2010年 第二子出産

